平成11年度学び輝く彩の国県民運動　協賛

彩の国さいたま

平成11年度第２回 収蔵文書展　大里地方の文書Ⅱ

危

機

リーダーの条件

～名主の情報収集～

2000. 2 .1(火)～ 3 .26(日)

埼玉県立文書館

開催にあたって

埼玉県立文書館は、昭和44（1969）年の開館から数えて、今年で30年の節目の年を迎えることができました。これもひとえに、関係各方面の御支援と御協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

この30年の間、当館では首尾一貫して、古文書や県の公文書をはじめとする歴史的価値のある記録史料の収集・保存を図るとともに、これらを整理し広く閲覧に供してまいりました。また、それとともに講座・講習会を開催し、郷土の歴史に親しんでいただけるよう努めております。当館の収蔵史料を地域別に紹介する収蔵文書展もその一環であり、今回は昨年度に続き大里地方にスポットを当て、現在の熊谷市域の名主家に残された文書を展示いたします。

江戸時代後期は、災害や飢饉、異国船の渡来など内憂外患に見舞われた時代でした。政治社会の大きなうねりを受けて村落は荒廃し、先行きの予測が極めて困難な状況でした。当展示では、村の名主を地域のリーダーとしてとらえて、村落の再建に向けた行動を情報収集活動を中心に紹介します。新世紀への期待がふくらむ一方、その胎動期にあたり社会的変動が激しい現代と、重ね合わせて御覧いただくこともできるかと思います。

最後に、当展示の開催にあたり、貴重な文書を御提供いただいております寄贈・寄託者の方々に深甚の謝意を表します。

平成12年２月

埼玉県立文書館長

□　凡　　例

1　本書は、平成11年度第２回収蔵文書展　大里地方の文書Ⅱ「危機／リーダーの条件～名主の情報収集～」（平成12年２月１日～３月26日）の展示解説書である。

2　本書掲載の番号は、巻末の展示文書一覧の番号と一致する。

3　本文中の文書名は、原則として原題のままとした。ただし、年号や適切な表題のない場合、推定年号や補題を［　］内に記載した。

4　本書の編集及び執筆は、古文書課の岡田英行が担当した。

□　表紙写真

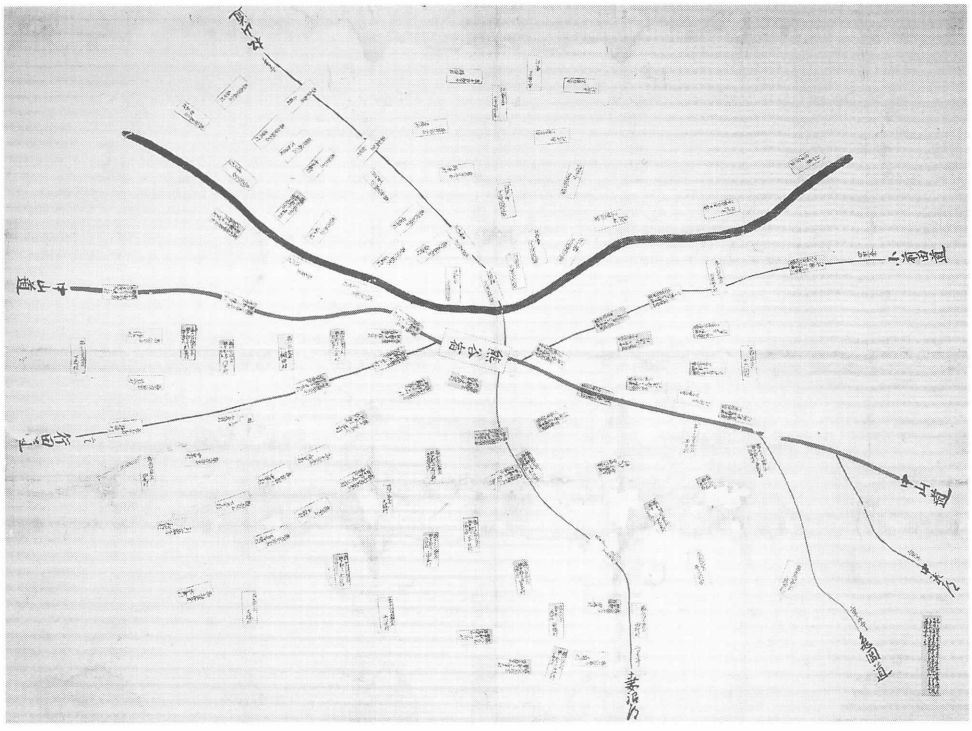
35　信州浅間山焼亡之麁絵図　天明３（1783）年

噴火による泥流が、人馬もろとも吾妻川から利根川に流れ下った様子を伝えている。

27　水戸浪士見聞記

元治元年、水戸藩尊王攘夷派が起こした天狗党の乱の記録。幟や馬印を、詳細に描いている。

30　珍裁吹寄掻集　Ｐ５参照



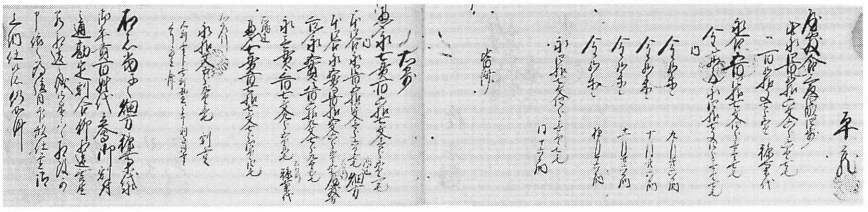
85

85　中山道大里郡熊谷駅助郷村々略絵図（部分）　天保６（1835）年

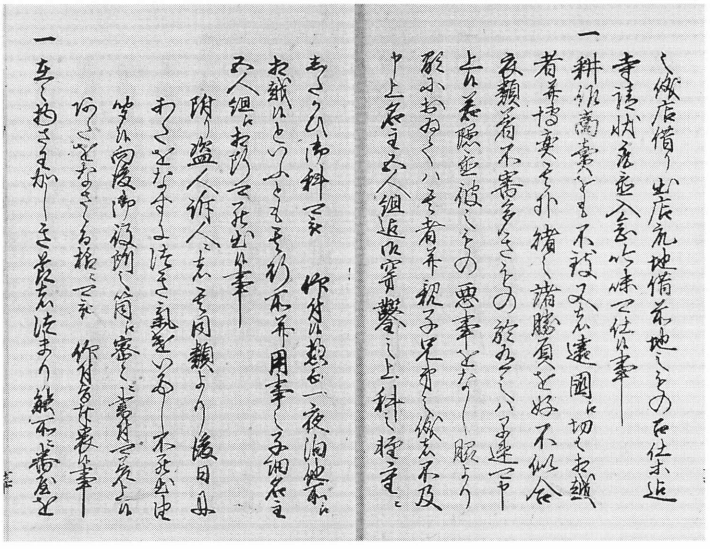
小泉村（現大里村）の助郷負担を、他村へ割り当てた際に作成された絵図の写し。当展示の舞台となる村々の名が見える。

地域リーダー 名主の職務

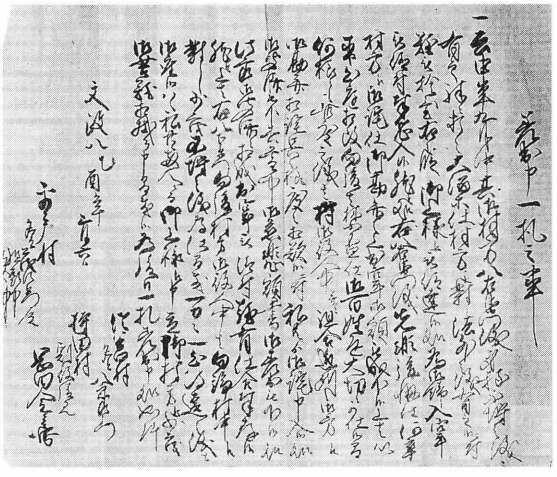
名主は１村１人が原則であったが、相給村の場合は領主ごとに名主が置かれた。一般村民より高い階層の農民であり、屋敷に門を構えるなどの特例が認められた。主な仕事は年貢・諸役の上納、治安の維持、紛争の調停、対外的な折衝など多岐にわたり、ほとんどの公文書には名主の署名・捺印が必要とされた。その職務から、領主支配の末端という立場と、村人の利害を代表する立場という二面性を持つ。



1



2



3

1　子畑方御年貢永并糠藁代永勘定帳　　天保11(1840)年

年貢の割当と完納は名主の最大の責務とされ、皆済不能の場合には処罰された。山林や産物へかかる雑税もあり、忍藩では糠と藁に金納の税が課された。

2　五人組帳

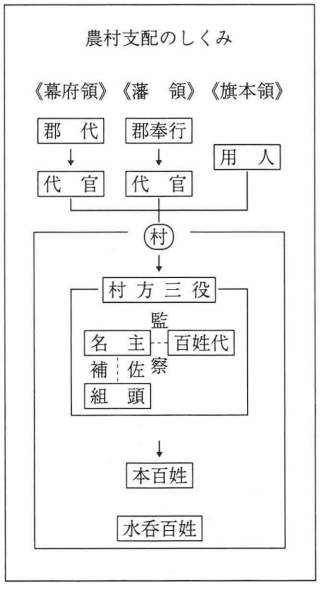
五人組の遵守すべき法令が、前書に列挙されている。年に数回、名主が寄合で読み聞かせた。領主からの触書の周知も、名主の仕事であった。

3　差出申一札之事

文政８(1825)年

酒による不始末について、禁盃（禁酒）を誓い詫びている。許しを乞う相手は、名主をはじめとする村役人であり、隣村の名主が仲介に入っている。

名主は、村内のもめ事を調整し、他村との争いには、村代表として交渉にあたった。



江戸時代の初期には、中世土豪の流れを汲む者や開発農民の家が世襲で名主を勤めた。中期以降には経済的に優位に立つ者が現れ、年番や入札によって名主役が交代することもあった。中には、村の勢力争いなどからその職を追われたり、一揆の標的となる名主もいた。

家柄だけでは名主の必要十分条件とはいえず、信頼されるリーダーには別の要素が求められた。特に、村落生活が立ちゆかなくなる「危機」に直面した場合、平時にましてその真価が問われた。

村の危機と名主たち

大きな戦乱が無く、平和な時代といわれる江戸時代にも危機が潜んでいた。特に、後期には洪水や地震などの災害が相次ぎ、没落農民や離村者がふえ農業生産は停滞した。さらに貨幣経済の浸透は、自給自足を建前とする農村に貧困と風俗の乱れを招き、村落の維持に危機が訪れた。このとき名主たちは、領主への嘆願、村民への施金や説諭などにより、村落全体の救済と立て直しに取り組んだ。

5　高反別家数人別並潰株惣作地改帳　　文政４(1821)年

野中家が名主を勤めた旗本曲淵知行所では、家数21軒が存続し、28軒が潰百姓となっている。田畑の８分の１ほどは作付されない手余地となり、村や組合共同で耕作する惣作が行われた。

7　［中奈良村潰百姓無高百姓書上麁絵図］

村内全体に、潰（破産）百姓と無高（水呑）百姓が散らばっている。よその村では一人前８～９反耕作するが、困窮のうえに新田から遠いため、４～５反しか作れないことを嘆いている。

8　御取締筋廻状　　丑年

公儀の役人をかたり、金子をだまし取る者の所業と人相書が記されている。関東一帯は無宿人や博徒が横行し、治安の悪化は大きな政治問題になっていた。

9　挟み板

廻状は、この板に挟んで村継ぎに伝達された。「寄場熊谷宿北組合」の焼き印がある。

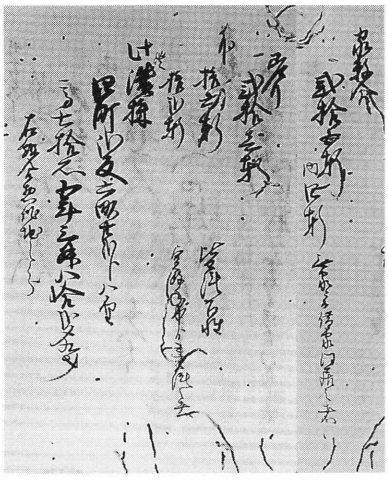
10　北組三拾七村南組二拾二村組合絵図　　天保７(1836)年

文政10年、幕府は御料・私領に関係なく、数十ケ村単位で改革組合村を結成させた。治安維持と経済統制が、主目的であった。農村荒廃という危機への、支配層としての対応といえる。

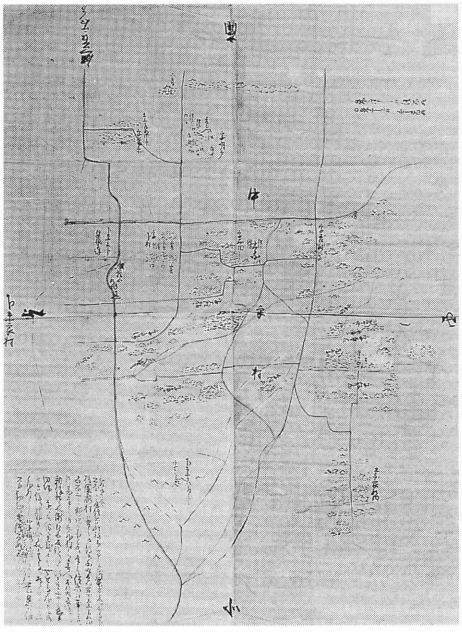
中奈良村の名主野中家は、熊谷宿寄場北組合の大惣代を勤めた。

11　御嘆願内密書上留　　天保14(1843)年

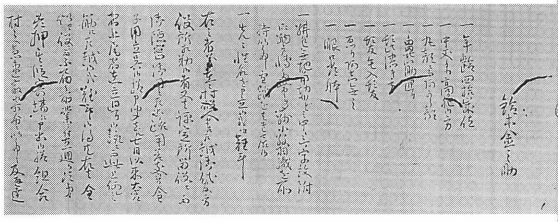
名主野中家は、村落経営の維持のため、幕府の評定所へ箱訴をした。宿場へ出稼ぎに出ている農民の帰村、高騰した物価の安定、宿場の飯盛女の風紀取締りなどを求めている。



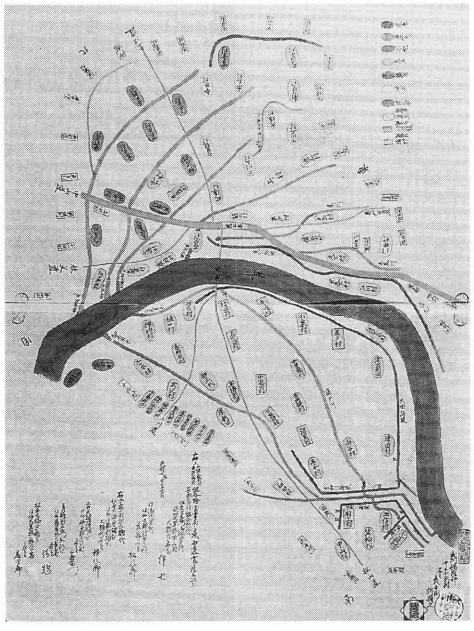
5



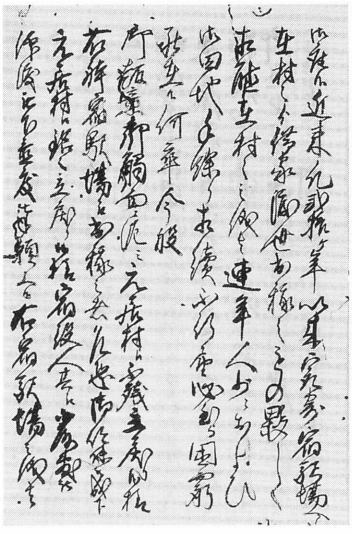
7



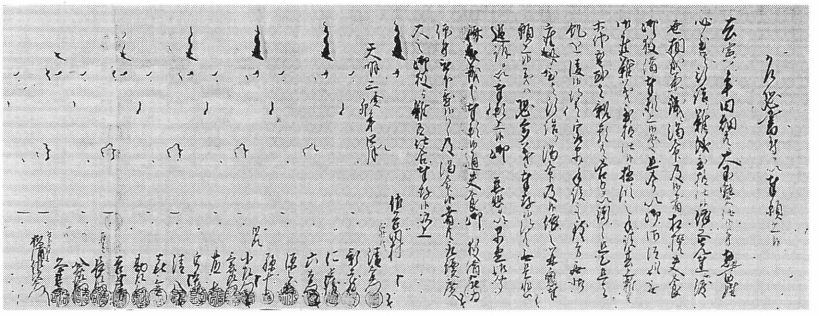
8、9



10

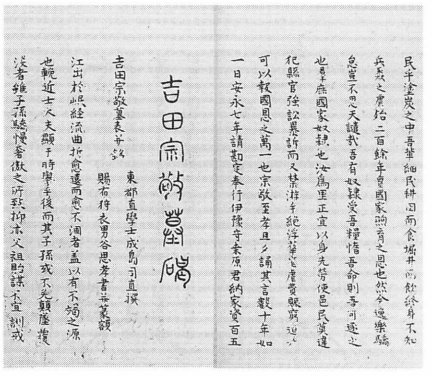


11

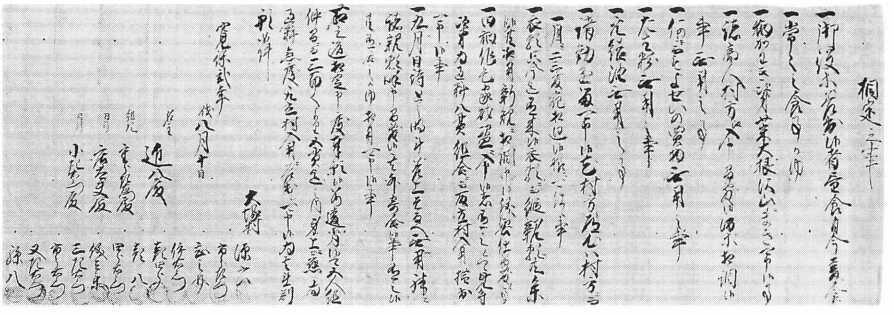


12

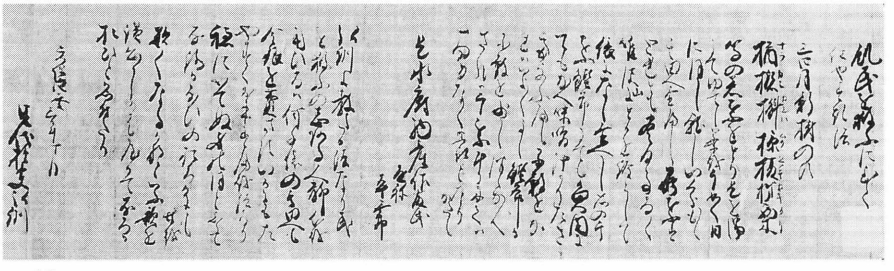
13



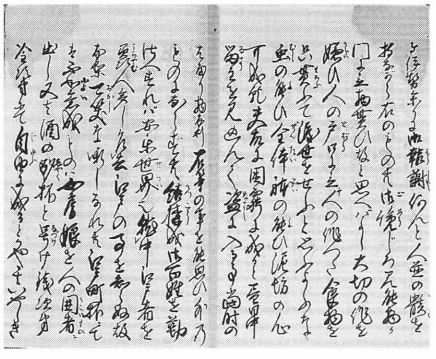
14



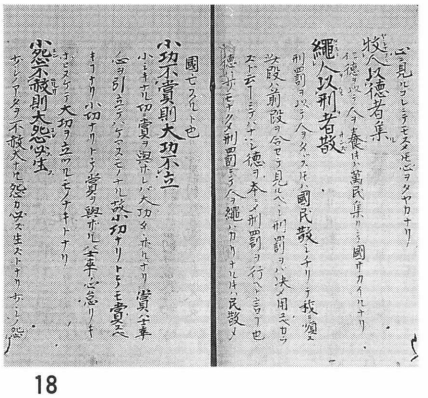
15



16



17



18

12　乍恐書付ヲ以奉願上候

天明3（1783）年

天明の飢饉は近世最大級の飢饉であり、山野の代用植物までとりつくしたという。佐谷田村の名主久保家では、村人のため領主に夫食（食糧）拝借を願い出ている。各村では、名主を中心に災害発生に即応した救済措置がとられた。

13　阿部鐵丸様御役場御奉行所様差出一件書物　文政5（1822）年

下奈良村の名主吉田家は、初代市右衛門宗以より代々、家産の3分の1を公のために献金したといわれる。3代宗敏が行った、利根川通川除堤組合村々への救済活動が記されている。

14　吉田宗敬墓碑

2代宗敬は、天明3年の浅間山噴火に際し多額の義金を拠出するなど、慈善活動に努めた。その功により、苗字帯刀を許されている。

15　相定之事　寛保2（1741）年

寛保の水害の直後、常々の食事は「かゆ」とするなど、倹約を村一同で申し合わせている。村掟は、領主の法令とは一線を画した自治的取り決めである。

16　飢民を救ふに至て仕やすき法

天保4（1833）年

本草学者、佐藤中陵の教えが述べられている。大塚村の名主松岡家では、日頃から救荒植物についての知識を蓄積していた。

17　俗語仮名交百姓要用教諭書

天保7（1836）年

野中家9代彦兵衛暁昌（号休意）が、自らの経験と読書をもとにして、村落を立て直すための教訓を往来物にまとめている。町場の生活や華美を疎んじ、農業専一に励むことを尊ぶ、休意の思想と実直な人柄がうかがえる。

18　素書国字解序

文化10（1813）年

肥塚村の名主東家は、漢学塾を経営した。教訓書により清廉な生き方を説き、村民の社会教化にあたった。10代東凱直は、熊谷宿の飯盛女の禁止に奔走したことで知られる。

情報収集による危機管理

地域のリーダーたる名主は、職務遂行にあたり、現状を的確に把握する必要があった。政治の動向や社会情勢に関わる情報収集に努めたのは、そのためである。特に変動が激しく見通しの立たない時代状況においては、過去に先例を求めたり、他地域の事例を集めて不慮の事態に備えた。関心の向きも多様であり、事件や災害、外国との関わり、旅による見聞や遠方の風物など、様々な情報が求められた。

事件と世相

20　下総国佐倉宗五郎伝記

佐倉藩の名主木内惣五郎が、村の窮状を将軍に直訴し、妻子ともに処刑されたという物語。

義民伝説が広く流布し、芝居や読本が人気を博した。

22　中山道熊谷宿織物記録市場一件巨細書物　乾　天保5(1834)年

織物の売買や市の立て方などをめぐる、助郷村々と商人との争論の詳細。人から人へ、転写を重ねて記録されていった。

23　［大塩事件記録］

天保8年、天保の飢饉による米不足の中、元大坂町奉行所与力の大塩平八郎が、窮民救済を叫び蜂起した。

事件の記録を筆写した野中休意は、家宝として永く自家の文庫にするよう述べている（弘化2年写）。

25　文久世説　乾

尊王攘夷派の天誅組が、大和五条で兵を挙げた。代官ら5人の役人の首が晒されている。

28　［乱暴人取締筋諸事留書］

慶応2(1866)年

幕末期、県下最大の打ちこわし事件（武州一揆）に関する風聞や、半鐘で合図しあう警戒策の申渡しが記録されている。

30　珍裁吹寄掻集

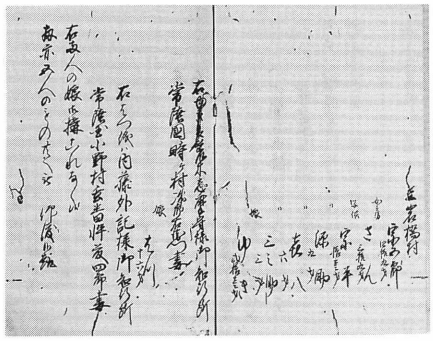
天保12～14(1841～43)年

天保の改革を押し進めた老中水野忠邦を、人面獣の姿で風刺している。小判をつかみ、腹に「欲ばり」という針を持つ。尾と永楽銭は、家紋を表す。

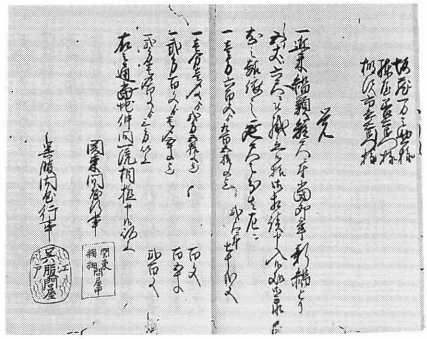
31　日本持丸長者鑑

天保7(1836)年

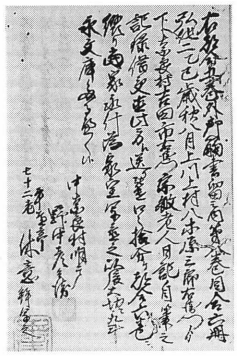
豪商のランキングが、相撲番付風に示されている。東西の大関に鴻池・三井が座っている。



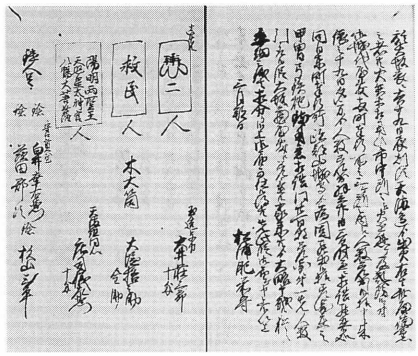
20

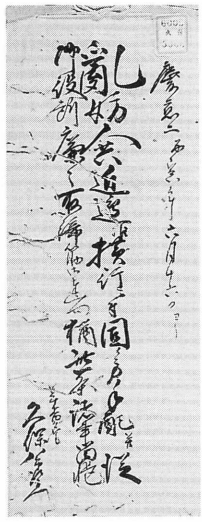


22

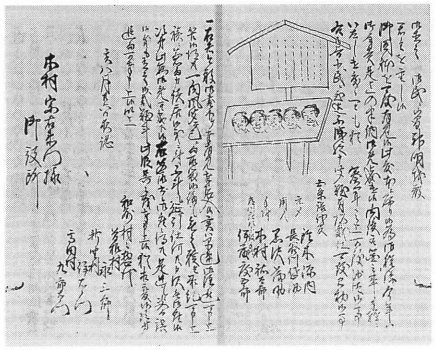


23



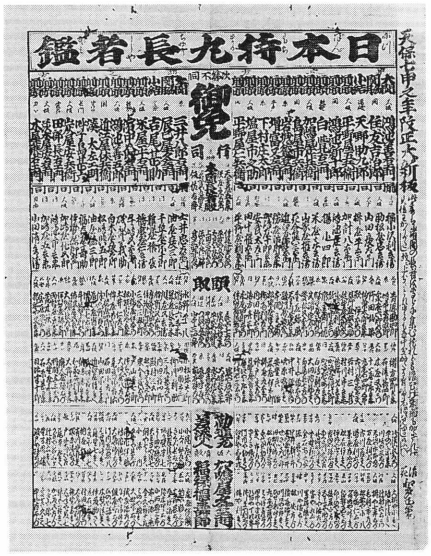


28

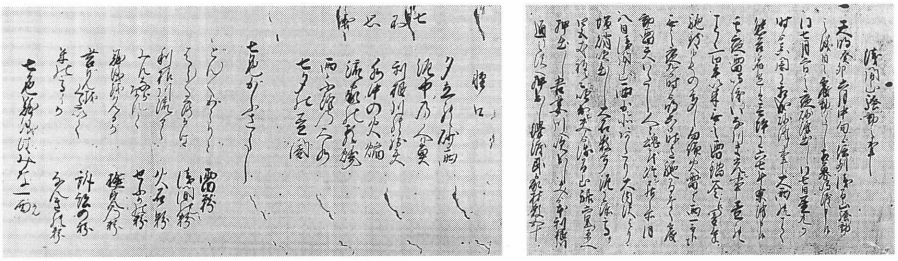


25

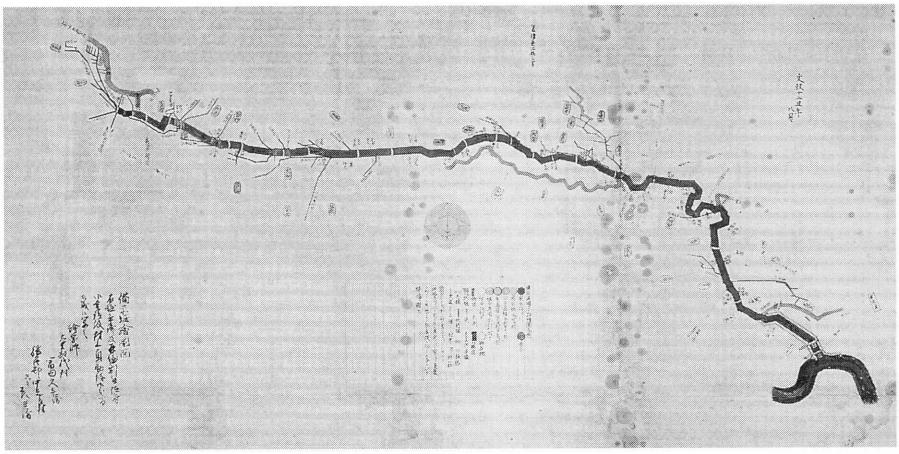
30



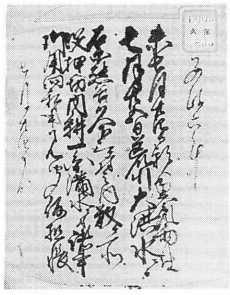
31



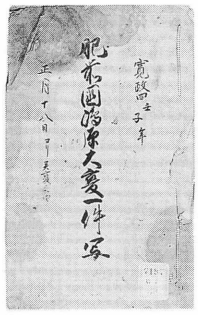
34



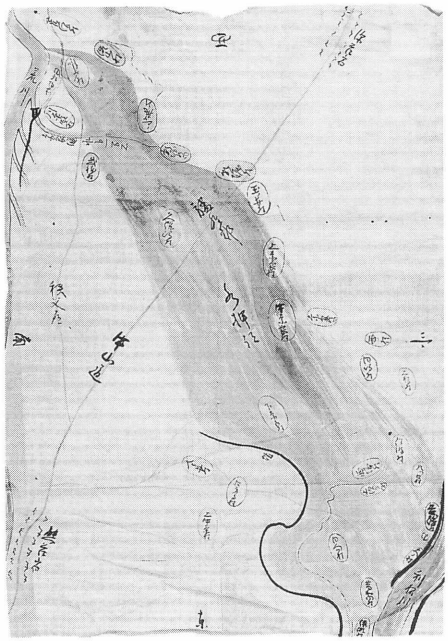
36



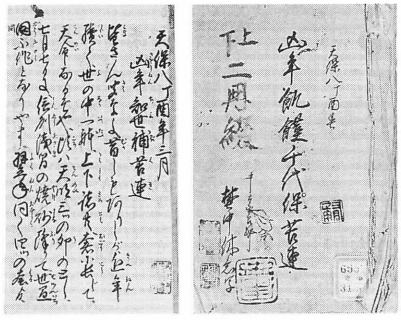
37



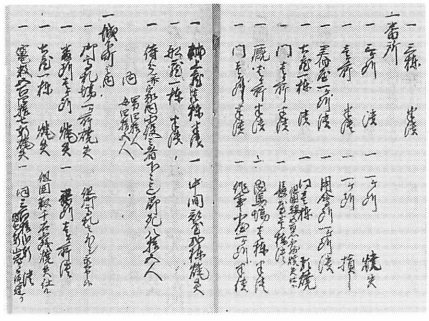
39



38



41



43

災害の記録

34　浅間山騒動之事

天明3（1783）年

火山灰が大雨のように降り、日中は闇、夜は稲妻が走り昼のようであったという。「夕立の砂雨」以下の七不思議は、災害の恐ろしさを伝えている。

36　備前渠絵図面

文政12（1829）年

浅間山噴火による泥流と降灰は、利根川の川床を上昇させ洪水の原因となった。その都度、備前渠用水があふれたため、取水口を閉じたが、後に用水不足から再興された。このとき、普請費用を上納し人々を感激させたのは、下奈良村名主の3代吉田市右衛門宗敏であった。

37　［荒川大洪水ニ付諸事御用向私用見聞仮控帳］

安政6（1859）年

洪水の被害状況や、代官あての検分願などが書き留められている。低場の家では8尺も水がたまり、田畑には3～4尺の砂利や砂が堆積したという。

38　［荒川出水之図］

決壊した荒川の水流は、旛羅郡内を侵し利根川にまで至っている。安政6年の洪水による被害を表すと考えられる。

39　肥前国島原大変一件写

寛政4（1792）年

地震と津波が九州地方を繰り返し襲い、長崎と熊本の被害が甚大であった。人々は、「島原大変、肥後迷惑」と呼んだ。

41　凶年飢饉ちよほくれ

天保8（1837）年

飢饉中の高値や、無為無策の政治を、滑稽な歌詞でつづって風刺している。

43　［弘化四年信濃国大地震］

現在の長野市付近を、マグニチュード7．4の地震が襲った。俗に「善光寺地震」と呼ばれ、御開帳のために集まった数千人の信者を巻き込んだ。夜中に発生したため、旅宿人の大多数が死亡した。

外国との交渉

44　蝦夷騒動聞書写

寛政４年、ロシアの使節ラクスマンが、漂流民大黒屋光太夫らの送還と通商交渉のため、根室に来航した。北からの脅威に対し、東北諸藩は防備に苦慮した様子が読み取れる。秋田藩の飛脚が持っていた書付が奥州二本松で筆写され、これを行脚僧が写し、さらに写を重ねた文書である。

46　異国船渡来ニ付海岸非常守備秘書 全　　嘉永３(1850)年

外交に関わることは、幕閣上層部しか知り得ない情報であった。ところが、ここには幕府の海防策や世界情勢が細かに記され、庶民にも伝わっていたことがわかる。「ホナバル」とはナポレオンのことである。

48　北亜墨利加国より献上物之控
嘉永７(1854)年

ペリーは、蒸気機関や電信など、多くの文物を日本に持ち込んだ。人々は、欧米の進んだ文化を垣間見ることとなった。日本からの返礼品は、蒔絵の硯箱や羽二重などであった。

49　［亜墨利加国風聞記］

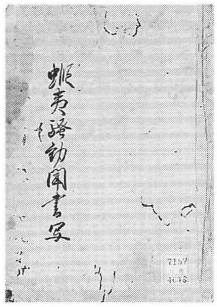
嘉永６年、ペリーが浦賀に来航した時の、各大名の沿岸配備図である。船の大きさや、大砲などの軍備についても記されている。

50　亜墨利加国条約並税則

安政５年に結ばれた、日米修好通商条約が記されている。箱館ほか５港での自由貿易、領事裁判権などが約された。

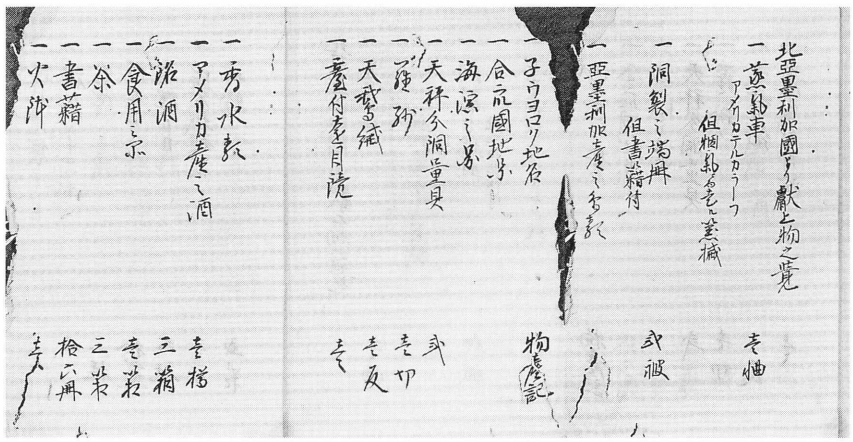
54　異人石塚図

オランダ・イギリス・ロシアの墓が、特色をもって描かれている。外国人の居住が始まると、横浜には外人墓地が設けられた。清国人は、宗教・民俗を異にするため、別に設置された。

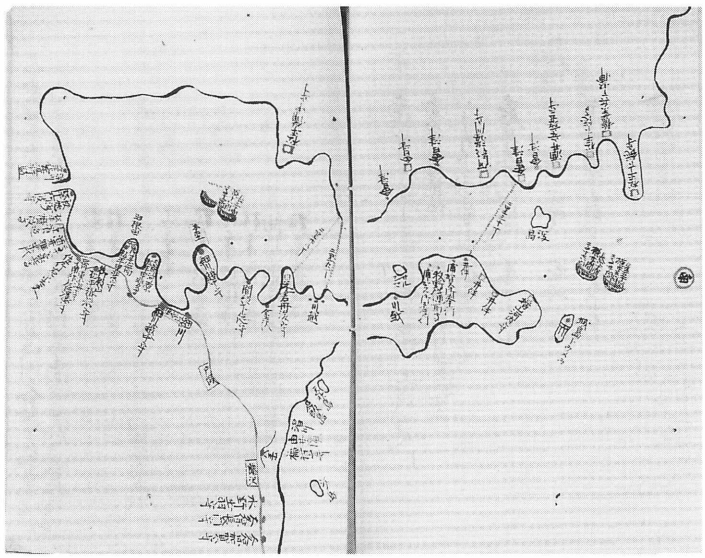


44

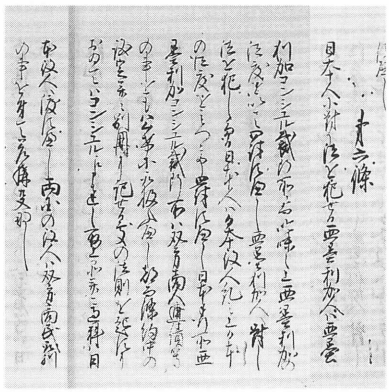
46



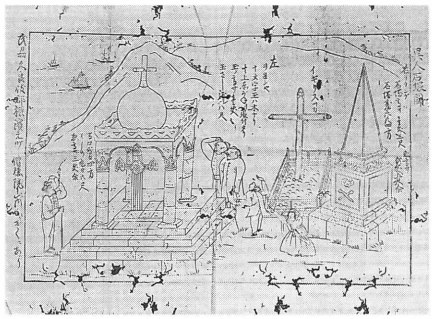
48



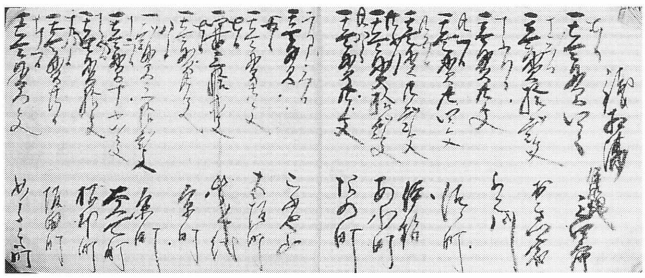
49



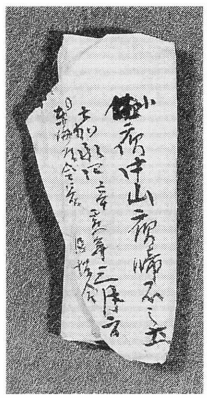
50



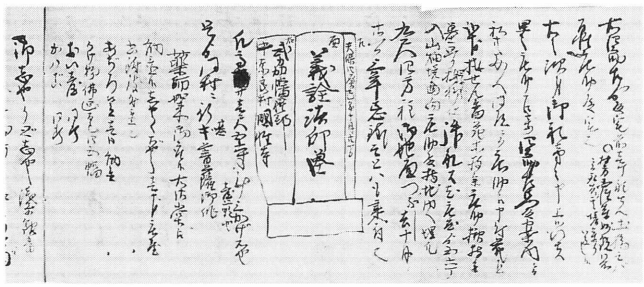
54



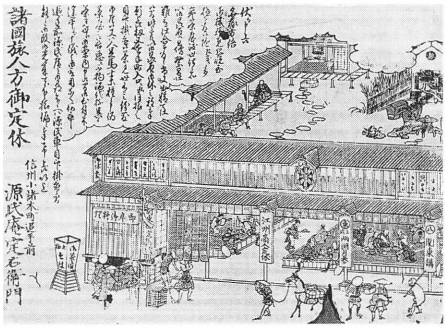
55



61

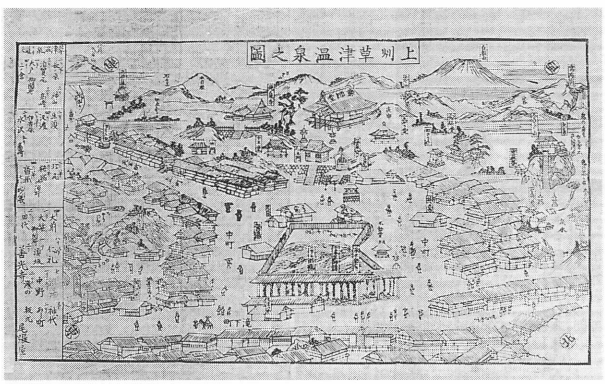


59



66

70



72

74

各地の見聞

55　道中名所附

明和2(1765)年

表題は「名所附」とあるが、道中の宿代や船賃のほか、各地の銭相場が日を追って記録されている。様々な情報に触れ、見聞を広めることも旅の目的であった。

59　四国遍路中并摂待附万覚帳

天保7(1836)年

東海道で伊勢から四国、安芸宮島、出雲大社を巡り、中山道で帰る約2カ月の旅である。途中、3年前に遍路に出て、宮島付近で死去した同郷人の墓参りをしている。

61　小夜中山夜啼石之土

嘉永4(1851)年

「夜啼石」は、東海道金谷宿辺に伝わる敵討ちの物語に登場する。伊勢参りの途中、自らの手で採取してきたと思われる。

66　源氏庵定右衛門引札

信州小諸の茶屋、源氏庵の案内広告である。源氏車（御所車の車輪）が、目印になっている。店にかけられた「関東講」の看板は、講元の商人に指定された優良な旅籠や店であることを示している。

70　［牛に引かれて善光寺参り］

晒しておいた布を角に引っかけて、善光寺に駆け込んだ牛と、それを追いかける老婆の図。思いがけず、よい方へ導かれる意味のことわざとなっている。

72　上州草津温泉之図

庶民の旅は、湯治や寺社参詣を名目とする場合がほとんどであった。名所や温泉の案内書が数多く出版され、未知の情報を伝えてくれた。

74　羽黒山三面大黒

山形県の羽黒山は、月山・湯殿山とともに信仰の対象となった。正面に大黒天、右面に毘沙門天、左面に弁才天の顔を持ち、仏法僧の三宝を守護するといわれる。

情報収集から活用へ

名主たちの活動は、単なる情報の収集にとどまらなかった。集めた情報を編纂して後世に託したり、村人に広く貸し出して「村の図書館」としての機能を果たした例もあった。村落生活の防衛と、危機回避を目指して進められた一連の活動は、自ら必要な情報を収集し活用する社会への第一歩となった。さらには、情報独占を前提とする幕府政治の基盤を揺さぶり、新時代を迎え入れる素地を培ったといえる。

78　奈良・玉井・大麻生・成田四堰用水論記　上

天保８年、用水取入口の打ちこわしに端を発し、大規模な水論が起きた。野中休意は、再発防止と秩序維持の立場から、関係文書を編纂している。

81　中山道熊谷駅定助郷古今趣旨書留　一　　天保６(1835)年

野中家は、熊谷宿助郷37ケ村大惣代を勤めた。その責任の重大さを悟り、近隣名主宅より関係文書を収集筆録した。名主親子、二人の手になる労作である。

83　助郷凡例　　天保14(1843)年

肥塚村の名主東凱直が編纂した、熊谷宿の助郷に関する先例集。古代の地方制度から説き起こし、将軍の日光社参、御三家通輿などが、過去60年間にわたって記録されている。

84　助郷人馬札

中奈良村の人馬が、熊谷宿の助郷役を勤めるときに使用した木札。

86　万書籍出入留

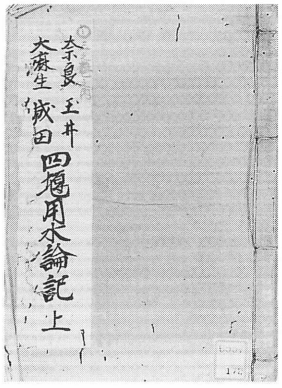
天保８(1837)年

野中家では、購入・筆写などにより集積した蔵書を広く貸し出した。天保５年から12年までの貸借が記録されており、小作人や他村の人名も見られる。情報の広がりと、地方農村の識字率の高さを示す史料である。

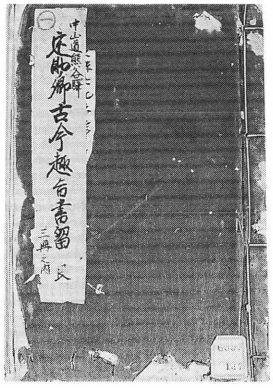
89　武蔵国旛羅一郡新四国略絵図

天保６(1835)年

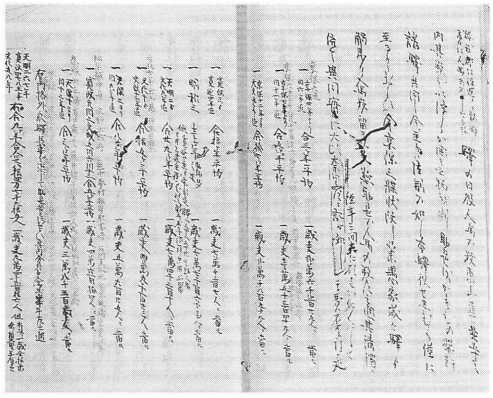
四国八十八ケ所観音霊場になぞらえた、郡内の寺院の巡拝案内である。守札の版木がハケ・タンポ付きで貸し出されている。



78

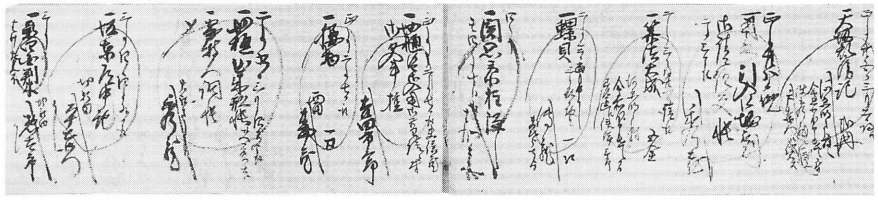


81

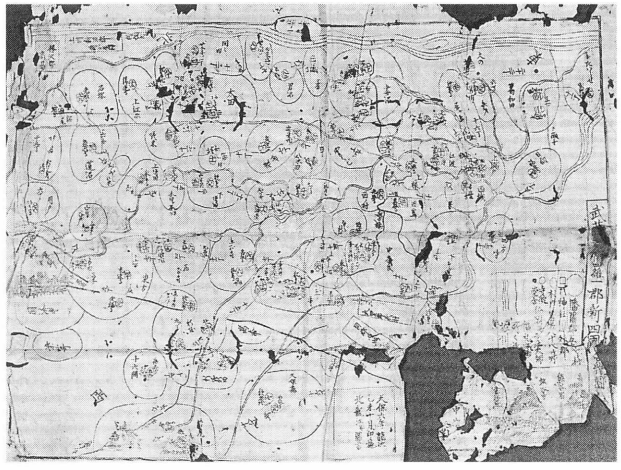


83

84



86



89

展　示　文　書　一　覧

※会期中、展示替えを行います。

No	名称	年代	文書番号
	地域リーダー名主の職務		
1	子畑方御年貢永并糠藁代永勘定帳	天保11（1840）年	松岡2253
2	五人組帳（山本大膳版）		野中3038
3	差出申一札之事（酒狂身持放埒詫扱ニ付）	文政８（1825）年	久保2336
4	迅速測図原図復刻版	明治16（1883）年	手書611、613、
		〃 17（1884）年	632、634
	村の危機と名主たち		
5	高反別家数人別並潰株惣作地改帳	文政４（1821）年	野中 801
6	申渡之事（村方百姓困窮逃散相続ニ付）	享和３（1803）年	野中3650
7	［中奈良村潰百姓無高百姓書上亀絵図］		野中8223
8	御取締筋廻状（人相書）	丑　年	野中5972
9	挟み板（寄場熊谷宿北組合）		野中9956
10	北組三拾七村南組二拾二村組合絵図	天保７（1836）年	野中8206
11	御嘆願内密書上留	天保14（1843）年	野中 354
12	乍恐書付ヲ以奉願上候（飢饉夫食拝借）	天明３（1783）年	久保2013
13	阿部鐵丸様御役場御奉行所様差出一件書物	文政５（1822）年	吉田(市)28
14	吉田宗敬墓碑		吉田(市)12
15	相定之事（常々之食事かゆ外村定メ条々）	寛保２（1741）年	松岡3655
16	飢民を救ふに至て仕やすき法	天保４（1833）年	松岡4067
17	俗語仮名交百姓要用教諭書	天保７（1836）年	野中3029
18	素書国字解序	文化10（1813）年	東 280
	情報収集による危機管理		
	【事件と世相】		
19	寸虫大望記（由井正雪事件）	享保13（1728）年	松岡 424
20	下総国佐倉宗五郎伝記		野中3107
21	中山道宿々増助郷願ニ付村々騒立一件控(伝馬騒動)		野中8276
22	中山道熊谷宿織物記録市場一件巨細書物　乾	天保５（1834）年	野中8272
23	［大塩事件記録］	弘化２（1845）年	野中8273
24	世の中静謐之控（桜田門外の変）		野中1152
25	文久世説　乾（薩英戦争・天誅組の変ほか）		野中 565
26	［長州征伐触書］		野中 455
27	水戸浪士見聞記（天狗党の乱）		野中1113
28	［乱暴人取締筋諸事留書］（武州一揆）	慶応２（1866）年	久保3383
29	羽生町打ちこわしニ付書状	慶応４（1868）年	野中5962
30	珍裁吹寄掻集	天保12（1841）年	野中3328
31	日本持丸長者鑑	天保７（1836）年	野中9552
32	足袋股引類大安売（熊谷上町わたや卯兵衛）		野中9911
	【災害の記録】		
33	八月二日大出水ニ付諸事書留覚帳	寛保２（1742）年	松岡 638
34	浅間山騒動之事	天明３（1783）年	久保2175
35	信州浅間山焼亡之亀絵図	天明３（1783）年	野中8231
36	備前渠絵図面	文政12（1829）年	野中8232
37	［荒川大洪水ニ付諸事御用向私用見聞仮控帳］	安政６（1859）年	久保 853
38	［荒川出水之図］		野中9917
39	肥前国島原大変一件写	寛政４（1792）年	松岡 397
40	落葉の掻集（聞書拾ひ集）		野中3352
41	凶年飢饉ちよほくれ	天保８（1837）年	野中3126
42	東海道筋並上方筋大津波大地震之事	嘉永７（1854）年	野中3131
43	［弘化四年信濃国大地震］		野中3132
	【外国との交渉】		
44	蝦夷騒動聞書写（ラクスマン来航）		松岡4648
45	［異国船渡来ニ付］（ブチャーチン来航）		野中3120
46	異国船渡来ニ付海岸非常守備秘書　全	嘉永３（1850）年	野中2942
47	嘉永六丑晩夏亜墨利加船来帆御訴并御書附来簡等写	嘉永６（1853）年	松岡 501
48	北亜墨利加国より献上物之控	嘉永７（1854）年	野中3122
49	［亜墨利加国風聞書］		野中3100
50	亜墨利加国条約並税則		野中2866
51	東海道神奈川宿在交易場次第	安政６（1859）年	野中3128
52	亜墨利加使節候趣	慶応２（1866）年	久保 644
53	［横浜付近取立絵図］	万延元（1860）年	野中8204
54	異人石塚図		野中9729
	【各地の見聞】		
55	道中名所附	明和２（1765）年	野中2320
56	西国指南車道中記	文政11（1828）年	野中2381
57	道中旅宿帳	文政13（1830）年	野中1412
58	伊勢道中案内留	天保元（1830）年	野中1413
59	四国遍路中并摂待附万覚帳	天保７（1836）年	野中2360
60	［夜啼石之由来］		野中2925
61	小夜中山夜啼石之土	嘉永４（1851）年	野中9660
62	西遊雑記　十		野中8266
63	方言修行金草鞋　六編		野中2972
64	おかげまいり明和神異記		野中3102
65	東山西山京名所独案内		野中9623
66	源氏庵定右衛門引札		野中9559
67	河内屋庄右衛門引札		野中9620
68	浪花講定宿		野中3346
69	定宿附		野中9853
70	［牛に引かれて善光寺参り］		野中9556
71	秩父三十二番絵図		野中9564
72	上州草津温泉之図		野中9567
73	越中国立山禅定并略御縁起名所附図		野中9574
74	羽黒山三面大黒		野中9606
75	［氷川本宮札］		野中9603
76	榛名山宝		野中9613
77	金毘羅大権現御守護		野中9667
	情報収集から活用へ		
78	奈良・玉井・大麻生・成田四堰用水論記　上		野中 172
79	荒川通堰論議定書　全	天保	野中 219
80	荒川通四堰用水路略絵図	天保10（1839）年	野中8201
81	中山道熊谷駅定助郷古今趣旨書留　一	天保６（1835）年	野中 124
82	中山道熊谷宿御伝馬役御証文写并助郷勤高帳　全		野中 27
83	助郷凡例	天保14（1843）年	東 283
84	助郷人馬札（熊谷宿）		野中9955
85	中山道大里郡熊谷駅助郷村々略絵図	天保６（1835）年	野中8203
86	万書籍出入留	天保８（1837）年	野中1925
87	算法地方大成		野中3186
88	奈良堰元圦御普請出来形帳	天保９（1838）年	野中 217
89	武蔵国旛羅一郡新四国略絵図	天保６（1835）年	野中9728

協力者（敬称略）

久保勝之／野中彦平／東誠二／松岡利藤次／吉田市彌

主な参考文献

山田直匡「近世封建制の解体と没落農民の実態」（『国史学』第77号）
小林文雄「近世後期における『蔵書の家』の社会的機能について」（『歴史』第76輯）
川田純之「改革組合村の内部構造の検討－武蔵国熊谷宿北組合の場合－」（『史学』第56巻４号）
高橋貞喜「幕末期農村における情報収集活動とその社会的背景－武州幡羅郡中奈良村野中家の事例－」（『地方史研究』262号）
長谷川宏「資料紹介　万書籍出入留」（『野中家蔵書目録』）
埼玉県『新編埼玉県史　通史編４』第３、４、６章
埼玉県教育委員会『埼玉県教育史　第１巻』第２編

（裏表紙カット　No.17俗語仮名交百姓要用教諭書より「旅人の印章」）

平成11年度第２回収蔵文書展　大里地方の文書Ⅱ　「危機／リーダーの条件　～名主の情報収集～」
発行：平成12年２月　　編集・発行：埼玉県立文書館　〒336-0011　浦和市高砂４－３－18
Tel 048-865-0112　Fax 048-839-0539
印刷：アサヒ印刷株式会社

利用案内

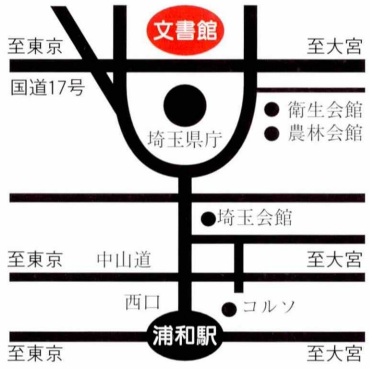
開館時間　9:00～17:00
休 館 日　月曜日、国民の祝日・休日、
毎月末日、年末年始
特別整理時間（春秋10日間以内）

交通案内

JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線：
浦和駅西口下車徒歩12分

JR埼京線：
中浦和駅西口下車徒歩15分

浦和駅より国際興業バス：
大戸経由・北浦和駅行き・県庁裏下車



SAITAMA PREFECTURAL ARCHIVES